

## オリコンとミライロ

# UD業務の進展へ提携

オリエンタルコンサルタンツ(野崎秀則代表取締役社長)は1日、UD(ユニバーサルデザイン)のまちづくりにおけるミライロ(垣内俊哉代表取締役社長)との業務提携を発表した。安心・安全をキーワードとしたハード分野で技術・経験・ノウハウを持つオリコンと、「障害のある当事者視点」からプロダクト開発支援や官民へのコンサルティングを行っているミライロが、お互いの経営資源を持ち寄り、UDの考え方を基調とする新たな「人・まち・未来」づくりを提案していく方針だ。

固い握手を交わす野崎(左)と垣内社長(中央)



超高齢社会への対応に加え、2016年の障害者差別解消法の施行、20年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、UDに対するニーズは急速に高まっている。両社はこうした社会構造の変化や多様化するUDニーズを踏まえ、「防災」「観光」「暮らし」「情報」「人材育成」の五つの視点から、官と

民の双方にUDのまちづくりを総合的にコーディネートしていきたいと考えてだ。

例えば「防災」は、ジャパンレジリエンス・アワード(強靱化大賞)優良賞を受賞した大島町(伊豆)の「土砂災害避難計画」の作成支援などの実績や経験を踏まえ、要配慮者の視点に立った大規模災害への備えを提案。「観光」については、高齢者や障害者が安心して旅行できる、ユニバーサルツーリズムに対応した観光地の受け入れ環境

の整備や、魅力的な旅行づくりを提案していく。両社は、東京オリンピック・パラリンピックに向けた競技場と周辺地域への多言語・バリアフリー環境の整備や、地方創生につながる総合的なUDまちづくりなどについても共同で提案していく考えで、そのために必要となるプロダクトも共同で開発し、まち(地域や自治体)への実装も推進していくことにしている。

野崎社長は「建設コンサルタンツにUDの視点は不可欠。例えば、魅力ある地域づくりは地方創生の重要なテーマだが、UDは十分その魅力となり得る。価値ある提案を行うだけでなく、(官民のフィールドで)実証していく」と強調。垣内社長は「106号の視点だから、車いすの私だからこそ伝えられることがある。障害を取り除くバリアフリーだけでなく、バリアフリーをバリエーション(価値)にするヒジネスを展開し、日本をUD先進国にしたい」と意気込